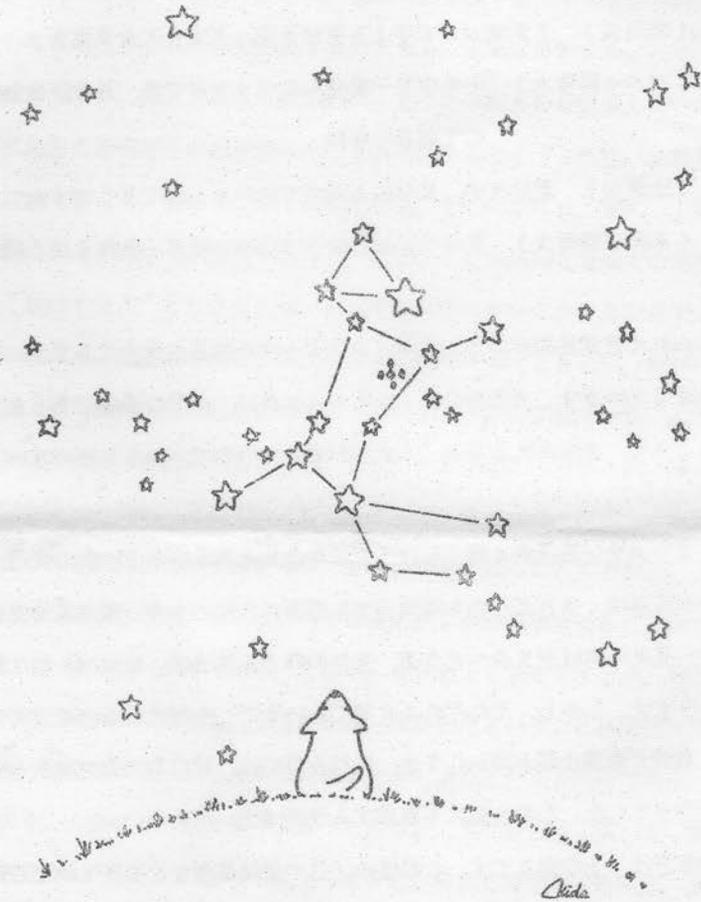


星 霄

NO. 103
Jan. 1983



1988年の天文現象

片野坂 重浩

1982年も、12月30日の月食でしめくられます。1983年の天文ハイライトを主なものだけ掲げます。83年は、なんといっても6月11日のインドネシア皆既日食です。我がKCAOの会員の中にも数名行かれる方がおられるので、帰国後の報告を期待しましょう。来年は、月食も国内では見えず寂しい年になります。今年の月食は、立派な観測をしましょう。

- 4月22日 (こと座流星群極大) 今年アメリカで非常に活発な出現を見せたのでご注意/
30日 (木星食) 「天文ガイド」より取材予定 天文台に全員集合!
- 8月13日 (ペルセウス群極大) 一年中で一番盛んなペルセウス群です。月の影響を全く受けないので最高の条件。
- 12月2日 (土星食) 屋間だが、見られるはず。31cmでどりですか。
14日 (ふたご群極大) 夏のペルセウス群ほどではないけど、条件も良く期待できます。

○ 惑星について

今年さわがれた惑星直列が終わったが、もうそろそろ惑星も見えてきます。春から夏の空に惑星が集まっています。天文台の31cmによる惑星は、必見の価値があります。一般公開の時にでもどうぞ。古庄氏によると、「火星が適さないので、おもしろくない」とのこと。

○ 彗星について

今年は、オースチン彗星が4等ぐらいまでになり見た人もかなりいたのでは。チュリモフ・グラスメンコ彗星は、9月ごろから天文台でも観測されています。来年もまだふたご座付近に見えます。見たい方は天文台へどうぞ。来年回帰する彗星は、テンペル第1彗星、コップ彗星などあります。しかし、それぞれ12等ぐらいまでしか増光しないようです。3月26、27日は、東京で彗星会議が開かれます。KCAOでは、KCSなるコメットセクションを一部会員で作りました。この会議にも出席する予定です。

来年の天文現象などは、上の通りです。このほか、月や星雲星団なども31cmでご覧になりませんか。来年は、「インドネシア日食」が一番の話題になることでしょう。この記事も秋までには、「星屑」に載ることでしょう。行かれる方、期待していますよ。

「私」からの解放

松下 太

自己紹介の要求がその人についての理解であれば、いつどこで生まれ何をしたかよりも、何を考え、それをどのように考えるかに重点を置くべきであると信じる。

彼は言う。「人の真の価値は、その人がどの程度に、どういった意味において『私』からの解放を果たしているかによって決定される。」と。

つまり、この世界（自然＝宇宙）の理解へ近づくためには、真に独立した自由な思考が必要であり、それは現実世界の矛盾やいさいの事情、他の人の習慣や偏見や判断から逃れることによって達成され、それによって人の真の価値が決まるのである。と私は解釈する。

あらゆる知識や判断が、刻々と消えては現われ、そういったものが氾濫しているこの現実世界において、純粹に独自の思考をその必要性に応じてのみ試みようとするには、まわりの期待や強制・義務といった圧迫もあって、極めて困難な状況にある。そのためには、常に、「私」からの解放（＝現実世界からの思考的独立）が必要であって、このことは本質的な意味での孤独の必要性を意味する。しかし“孤独な旅人”となることは、あらゆる意味においてかなりの勇気を必要とする。

私は今、このほとんど正反対の向きに伸びた二本の道の交点でとまどい、精神の弱さとそれによるあいまいさが、現実世界からの誘惑に味方して、宙ぶらりんの状態にいる。こういった冒険心や勇気を支え鼓舞するのは、自然へのあこがれ、驚き、それを知ろうとする強い好奇心であり、自然についての認識を正しい方向へ深めていくことによって、富や名誉や権威への執着心、その場かぎりの欲望や気まぐれを満たすことのはかなさ、意味のなさを知ることである。

実際、私が冷静に物事を考え、それについてのなにがしかの理解を得ることができたと確信できるのは、いつでも、孤独でいた時である。それは、自分をよく見せようとか、他人に認められたいとかいう個人的利己的な欲にかられる必要がなかったからだということは言うまでもない。つまり、その時私は、低い程度にせよ、「私」からの解放を果たすことができたのである。

さらに私は思う、人が自然への理解・真理へと近づき、真の優しさ・美しさ・喜びを感じ得る可能性は、“孤独な旅人”としての道へ一歩でも踏み込む勇気を勝ちとった時に、芽ばえるのである。そして同時に、生命の意義、すべての人の心の奥底に埋もれている共通の心を理解し得る道が、開かれるのであると。 . . . しぶい / きまったね / 熊大理学部物理学科 1年松下太ですよろしく。

スペシャル

アマ天に参加して

徳永 保固

10月17日、博多で第15回アマチュア天文研究発表大会があるということで、私は熊本大学の仲間といっしょに参加することにしました。当日、私が上熊本駅につくと、なんとみんなと乗る予定だった特急有明2号はでたあと、あわてて熊本駅へ行って、後続の有明4号でおいかけるはめになってしまいました。

博多の三井アーバンホテルで午前10時に会は始まりました。会がはじまってすぐ、私は大きなショックを受けました。会のはじまる2日前に斉田博先生が急逝されたことを知らされたのです。箕輪氏の号令の下、昨年今日(10月17日)にご逝去された下保茂先生と斉田先生に対して黙禱をささげ、二先生のご冥福をお祈りしました。

会はずづいて研究発表に移りました。今回は全部で18の研究が発表されました。概要は以下のとおりです。

1. 新採録の富山県における星の和名 アンケート方式による新採録の星の和名の発表 増田氏
2. 津軽半島地区に於ける星の民俗調査報告 同地区における調査結果のマイコン処理 北尾氏
3. 時計のパラドックスについて アインシュタインの相対性原理の再検討。 和田氏
4. 月の軌道 月の軌道が波打たないことを証明し、そのような図を掲載している書物に再検討を促す。 雑賀氏
5. 日食時における生物変化 日食の歌をとおして日食時における生物変化等を調べる。 箕輪氏
6. 太陽ダーク・フィラメントの分布 H α 観測結果の考察 小池田氏
7. 十字線方による日面経緯度の測定 十字線方の紹介。 早水氏
8. ステップバインド法によるステッピングモーター駆動回路の製作。 宮原氏
9. 25 cm F 2.7 (f l 670 mm) 純シュミットの制作。 高槻氏
10. SIT カラーカメラによる天体の撮影 撮影されたビデオの紹介。 小石川氏
11. グレゴリオ暦制定400年を記念して、3200, 6400, 9600年を平年にする案 山口氏
12. 1981年12月17日の火球 今まで集まったデータ集計結果と、協力要請。 加茂氏
13. 天測点跡の探索について 天測点の紹介と、探索の経過発表。 武石氏
14. 同好会活動としての接食観測 仙台天文同好会の接食観測結果報告と同好会のありかたを考え

る。大並氏

15. 変光星 Ori A の観測報告。ハンブルグのローゼンが発見した Ori A という変光星の観測結果の発表。

16. 天体望遠鏡のマイコン制御・自作31cm反赤のマイコン制御システム発表 淵氏

17. 日本アマチュア天文史編纂会報告 森久保氏

18. 北九州市に設置される天体観測システムの概要 出口氏

このあと、太陽、日食・月食、月・惑星、小惑星・彗星、流星、変光星・星食、天文学史、天体写真・天文機器の8つの分科会に別れて話し合いました。私は天文学史にでしたが、例年、この分科会の座長をされていた芥田博先生が、2日前に急逝されたため、先生をしのぶ話ばかりで、なんとなくお通夜みたいな分科会になってしまいました。

このあと、閉会式で、下保茂先生のご遺志で運営委員会に寄付された基金で設けられた「下保奨励賞」の第1回の授賞者が発表されました。授賞者は、小池田洋子氏に決定され、大会委員長箕輪氏から表彰されました。

会のあと、懇親会がもたれましたが、私は時間の都合で参加せず帰りました。

アマ天懇親会

有馬 博

発表会よりも懇親会の方を楽しみにしている人も多いが、会費が4000円となると貧乏学生にとっては非常に辛いところである。参加費、写真代、交通費等も入ると聖徳太子がとんでいってしまうという訳で学生のほとんどは発表会終了後帰ってしまった。熊天研からの参加は宮本・小林・森本・安達・矢住・筆者の6名であったが全体では80名もの参加があった。この中には村山・藤井氏を始めとするおなじみの顔ぶれがそろっていたが、ご多聞にもれず星の手帳の「酒豪」阿部氏も参加されていた。阿部氏は焼酎を持って来られ「今日は、あの時の学生さんと飲みたかったんだが」と残念そうに話されていた。

さて「乾杯」のあとは、司会者の話などそっちのけて、「元をとらねば！」という表情でテーブルの回りをかけ回り豪華な料理をパクついていた。やがて30分もすると一応落ちついた様子であちこちで久しぶりに会う友人と語りあったり、初対面ながら天文の話に花をさかせたり楽しい雰囲気の中で進んでいる。歌も飛びだし盛りあがった。ここで宮本氏がマイクを持たれた時、今はもう

神話になりつゝある〇〇が出るかと思われたがさすがに出なかった。やはり山本氏の不参加が悔やまれる。

筆者は水割専門にあちこちうろついていたが、天ドームでおなじみの青木源四郎氏と話す機会を得た。青木氏は70すぎだということに非常に元気で毎日、北極星の位置を秒単位で観測し天文台にも資料を提供しているという事だった。又、望遠鏡も自動焦点器、エンコーダ、特殊セル等非常に優れた特注品を注文されているそうで、ちなみに値段も890万とか(三鷹製、31cm反赤)とかかく話していると話題が絶えず次から次に色々な話を聞かせてもらった。天文に限らないが趣味を持つ事は生きていく活力になる本当にいいものだと思う。

時計の針はまだ7時を回ったところだったが、なんだかもう11時のような錯覚に陥った。最後に例のアマ天謡歌を歌いバンザイ三唱で無事懇親会は終了した。この後、阿部氏らは中洲へ行かれたかどうかはさだかではないが我々熊天研は帰路へとついた。

☆天文台日誌より

今回は、10月2日から10月31日までの天文台日誌から、ピックアップしてみました。

☆10/2 観月会 雲の中にキレイな月が見えた。(記入者不明)

☆10/3 月面投影板作成、直径30cmの月は美しい。(MAT)

☆10/7 中学生がキャンプで星の説明をするということだったので、天文台だよりの9・10月分を手渡す。(小林M)

☆10/8 木星 低空で火星のように見えたそう。(永井)

☆10/12 ひさしぶりに子供の来台者が多くて、すとし疲れました。(小林J)

☆10/14 富山より渡辺誠氏(天ガ 変光星ガイドの人)来台。(須田)

☆10/22 オリオン座流星群と思われる大火球出現。(工藤)

☆10/24 1982 f m 9.5~10.0 dia 1' 強 Tail 3 cc 5~6

流れ星多し ♀Ori (MAT)

☆10/25 1982 f MIのそばを通過 (堀田)

☆10/26 小林J氏がくるみを持ってくる。みんなで割って食べたので、そのかすで部屋がよ
ごれた。(ST)

☆10/30 カメ虫多数雨戸についている。注意! (MARO)

○行事予定

12月下旬~1月7日 しぶんぎ(りゅう)流星群 (今年の極大は1月4日の昼頃とか、満月
の頃であまり期待はできません。)

1月5日 新年会;(楽しく飲み食いしながら、今年の抱負でも語り合しましょう。)

天文台一般公開開始

1月8日 運営委員会 (今年最初の運営委員会です。運営委員の方は全員参加しましょう。)

○お知らせ

天文台のキャンパン(天文台の趣旨、公開日時、募金の協力の呼びかけ等を記したもの)が完成し
ました。水素増感用の真空タンクをお求めの方は、工藤さんまで(1ヶ1400円)

流星観測班を設立の予定 希望者は天文台の連絡板へ、天文台の本棚に、Sky & Telescope
と天文月報を入荷しました。1月中に写真コンテストを行う予定です。失敗作、その他
いろいろジャンルは問いません。詳しくは新年会で。天文台 COMET SECTION
にて、トレーナーを作りました。色はピンク。限定販売。御希望の方は、小林さんまで。

天文台が開所してから、早いものでもう8ヶ月になろうとしています。当初、天文台を法人化する
ということでしたが、そのためには年500万~1000万の予算、少なくとも1人の有給者を
置くという条件があり、どうも今のところ、残念ながら法人化は無理のようです。

☆☆ 編集後記 ☆☆

☆ ST ☆

新年、明けましておめでとうございませう。念願の天文台の完成、熊天研の古顔でいらっしやった津留先生の御逝去等、いろいろとあった82年も過ぎ去り、1983年、新しい年の幕明けです。去年、目いっぱい星とつきあわれた方も、またそうでない方も、心を新たに今年一年、悔いのない星人生を送りませう。

さて、ここでおわびを！。会員の皆さんの中には、今度は新年号、どんなすばらしい会報が送られてくるだろうかと、内心期待されていた方もいらっしやったと思いますが、私、編集者の力不足のために、何とも内容の乏しい会報になってしまいました。何分、編集など初めての経験のため、読みづらい点が多々あるかとは思いますが御了承ください。

ところで、毎月発行ともなると記事を考えるのが大変です。そこで、会員の皆さんの積極的な投稿をお待ちします。よりよい会報を発行するためにも御協力ください。

